■■■　外国人居住者は地域コミュニティの担い手となり得るか？― 地域国際化を考える研修会2008から ― ■■■

今年で8回目となる地域国際化を考える研修会を8月18日(月）～8月29日(金）の間のうち5日間開催しました。今年度は教育委員会から学校への広報が行き渡らなかったことや、兵庫県の行財政改革のため出張費が出にくくなっているなどの問題からか、行政関係者の参加が例年より少なかったことが非常に残念でした。

１日目は総論として、外国人の多住地域で、昨年度から集住都市会議の幹事団体となっている美濃加茂市多文化共生室長の坂井さんとアドバイザーである静岡文化芸術大学教授の池上先生に、今後、兵庫県内の姫路や尼崎などでも大手メーカーの工場が稼動し始めたら起こるだろう様々な問題や対応、また今後についてお話し頂きました。

また今年度は西宮市国際交流協会とも共催し、西宮市でも開催することができました。西宮では地域での取り組みというテーマで、尼崎で地域の外国人住民の視点に立ったお店をされている方からのお話や西宮市の地域の学校などと連携した子ども支援活動のお話を伺い、大変参考になりました。

最終日には神戸大学生有志による風刺劇「学ぶ権利を取り戻すために～ある夜間中学の風景～」を再上演していただきました。夜間中学のことがとてもよく理解できる内容になっていますので、今回見逃した方は再上演の際にはぜひ観てほしいと思います。

それでは、ニュース係より、そのうちの２日間の報告をします。

◆「外国人住民の抱える問題～国際結婚」に参加して

8月25日に行われた「外国人住民の抱える問題～国際結婚」の講演に出席しました。

最初に兵庫県国際交流協会、外国人県民インフォーメーションセンターの小口氏より仕事場の紹介がありました。ハーバーランドクリスタルタワー６階で外国人の相談をされています。「定住外国人の抱えている問題を気軽に母語で相談できる窓口ですので、困っておられる外国人がおられたら紹介してください」ということでした。

本題の「国際結婚から見えるもの」では、移住連女性プロジェクト運営委員の大下富佐江氏が、移住女性の来日の歴史・国際結婚のパターン・特徴等、全般について、そこから起こってくる問題の実例を挙げて説明されました。

ことばが通じ合わないために起こるストレス・生活習慣・価値観・思惑の違い・差別・在留資格・人間関係・核家族の中での子育ての難しさ等、問題点は多種です。これらを社会問題として取り上げ、共に生き生きと暮らせる社会を作らない限り問題が起こることは必至です。女性も子どもも参加でき誰もが相談することができる社会、助け合える社会を作らなければ、と話されました。

また、もう一人の講師、伊藤みどり氏『関西生命線代表』は「いのちの電話～孤立する外国人」というテーマで、ご自分の活動である台湾語と北京語による電話相談の中から具体例を挙げられ、そのニーズに応じたイベントを紹介されました。“子育て勉強会”や“弁当づくり講習会”などを企画・実施されていて、興味深く拝聴しました。

何時何処で何が起こってもおかしくないストレス社会で、孤独・不安のために危うくなる命の救いとして、母語で、電話相談を受けられたら助かるいのちもあるのではないか、という志を持って活動されている氏の熱意の伝わってくるお話が印象的でした。日本の社会的事情により、外国人女性の来日の増加と共に国際結婚の多くなっている現在、その人たちが抱えている問題解決のささやかな手助けとして、相談できる機関があることだけでも紹介できたらと思いました。　(ニュー

ス係　谷先晴代）

◆「エスニック・コミュニティのエンパワメント」に参加して

　研修会最終日8月29日、会場(HAT神戸国際健康開発センター)は満員の盛況。最終日の研修の内容は「エスニック・コミュニティのエンパワメント」です。横文字ばかりの題目で、レポーター(定年退職者です)は、理解するのに時間がかかりました(恥)。

第1の講話の題目は「ブラジル人保護者が抱えるディレンマ」です。講師は、NPO SABJA(在日ブラジル人を支援する会)でカウンセラーをしておられる東北大学大学院文学研究科専門研究員のヤマモト・ルシア・エミコさんです。

講話は日系ブラジル人が日本に移動するようになった背景説明から始まり、移住の中での子女の教育問題全般に移りました。そして具体例として、独身で来日した2人の移民が日本で結婚して2人の子どもを授かりいったんブラジルへ帰国して事業を興すも経営に失敗して、7年後再来日したA家の事例を挙げて話は進みました。A家の教育戦略は2人の娘を日本の中のブラジル人学校へ通わせることでしたが、来日後の収入が予想以上に少なくその教育戦略は破綻しました。やむなく公立学校に編入させたのですが・・・。やがては子どもをブラジルの大学に進学させたいが、母語教育を受けさせる機会がありません。子ども自身もブラジルへの帰国を望まなくなりつつあります。NPO SABJAはA家のような悩みを持つ保護者の相談相手となり、必要な指導を行っています。教育問題以外にも健康および精神問題、法律問題や家族問題・未成年者問題にも対応できる様々な専門分野のボランティアで構成されています。

講話はレジメとオーバーヘッド・プロジェクターで補強されていました。

第2の講話の題目は「エスニック・コミュニティの活性化政策とは」です。講師は、カトリック三島教会神父ファム・ディン・ソンさんです。講話は神父が元はベトナム・ボートピープルであったとの自己紹介から始まりました。

そのような体験から神父が感じたのは、日本における難民の取り扱いは難民というより「不法在留者」としての冷遇であった。日本到着後大村での3ヶ月は実際上は刑務所であったし、その後姫路難民促進センターでようやく外国人として扱われたが、難民を支援する制度は極めてお粗末。機会を得てアメリカで2年間生活した神父が見たのは、難民を支援する諸制度でした。再び日本へ入国して在日ベトナム人の家族を観察すると、親(ベトナム文化)と子ども(日本文化)が互いの文化を認めていません。このことが阪神大震災で神戸へ支援に駆けつけた神父の目に明らかになりました。日本人とは異なった視点を持つ外国人が今や日本に230万人もいます。この貴重な外国人パワーを日本は活かすことができていません。その原因は、日本社会が閉鎖的・排他的であるからではないでしょうか。

第3の講話の題目は「オリンピアのベトナム人支援のあり方」です。講師は、兵庫県立大学野津隆志教授(比較教育学専門)です。教授は2002年に1年間、アメリカ北西のワシントン州の小都市オリンピアで生活しながら、研究者として同市でのマイノリティ支援のありようを調査・分析されました。その結果の中からベトナム人支援制度に的を絞って、レジメとオーバーヘッド・プロジェクターを利用して説明してくださいました。

　ワシントン州立大学はアジア系学生が60%を越え、オリンピア市の高校では優秀卒業生表彰はベトナム系が独占状態で、卒業生はほとんどが大学へ進みます。医学部志向が強く、一般にベトナム系生徒は優秀であると見られているそうです。2006年兵庫県のベトナム生徒の高校進学率が40%に止まっているのとは対照的です。なぜこんなに違うのか、なにか制度が異なるからだとしか思えません。調べていくと、日本との大きな違いは、高校生ボランティア・大学生ボランティア・社会人ボランティアなどが小・中学校教室や高校のESL(外国人のための英語教室)で活動することが社会的に高く評価されるだけでなく、入学資格や学位などを取得するのにボランティア活動が必要条

件となる制度があったり、何がしかの経済的報酬を得られる制度があったりすることです。このようにサービスをした人も受けた人も相互に利益を受ける「互酬型ボランティア」制度は、日本人が考える伝統的ボランティア精神(無償性)から逸脱しているとする向きもあります。
教授は、互酬型ボランティア制度「スクールサポーター(3,000円／日)」、「多文化共生サポーター(2,800円／時間)」がすでに神戸には存在することを指摘され、これら施策の方向を強めていくことが望ましいことである、と講話を締めくくられました。
お三方の講話が終わった後、受講者からの質問と自由意見発表があり、主催者KFC金宣吉理事長の挨拶で研修会2008の閉幕となりました。　（ニュース係 操田誠）

■■■日本語プロジェクト■■■

◆日本語能力試験2、3級合格目標クラス実施にあたって

ＫＦＣ日本語Ｐでは、毎年1、２名ほどは日本語能力試験の2級や1級に合格したいという方を支援してきましたが、昨年度あたりから試験を目標に学習する人が増えてきました。在日一世の外国人にとって日本語能力の資格はよりよい仕事を得るために有利になります。３級までは勉強慣れしている人には合格も難しくないようですが、２級になると語彙や漢字の数もぐっと増え、よほど勉強しないといけません。
支援者も合格を目標にされると教えるのに責任を感じてしまうようです。私自身も週一回の勉強時間以外に補習をしなければとか、限られた時間内に上手に説明しなければと気が張り肩が凝ったというか疲れた経験があります。学習者がその気持ちに応えてくれなければ、あせってしまいます。
勉強しなければならないのは私ではなく学習者の方ですよね。（プロとボランティアの先生のことを論議するのは別の機会に譲りますが、）私たちボランティアの支援者がそんなに責任を感じて合格させなければならないのか。私が担当した学習者は残念ながら不合格でした。その方は２ヶ所の教室で勉強し、もう一人の支援者の方は試験場の下見にも付き合ってくれたそうです。
今年度、機会を得て「日本語能力試験2級合格目標クラス」を試しにやれることになりました。講師は日本語教師の尾崎美千代先生で学習者には20回40,000円の受講料を頂いています。ボランティア支援者での能力試験上級レベルの対応は負担が重過ぎるのじゃないかと感じていたのと、費用負担ができる方には市場価格の金額で勉強してほしいという思いからこの設定にしてみました。学習者の集まりは悪く、開講できるかどうかという瀬戸際でしたが、金理事長の「赤字でもやってみたらいい。ビザ取得のために日本語能力の証明が必要になってくる時代になるだろうし、ニーズがあるかどうかも探りたい」という言葉で、やってみることになりました。始まってから受講生が友達を連れてきてくれたおかげで7回が終わった時点で7名勉強しています。
ある程度のお金を出して日本語を勉強する人がいることが今回わかったわけですが、反対に費用が高すぎて受講したくてもできない人がいる現実もつきつけられました。限りある収入をどう使うかは個人の問題ですが、在日外国人にとって日本語能力が人権の保障につながるものであるならば、厳しい環境で働き、時間的経済的に余裕のない人にこそ日本社会は学習の保障をしなければならないのではないかと、（講座を企画しておきながら）考えてしまったのであります。
9月13日（土）からは、初級後半の文法と3級合格目標のクラスを企画しています。こちらは協力金負担で開講する予定です。土曜日に学習できる方がいらっしゃったら是非ご紹介ください。
（奥優伽子）

◆学校での取り組み～真陽小学校の事例から

９月の研修会は真陽小学校の杉本智美先生をお迎えして、上記の標題でお話し頂きました。

「真陽小学校は現在全校児童192名で、そのうち外国籍児童は30名。しかしそのほとんどは日本生まれで、特に目に見えて学習面や生活面で困る児童は少ないです。ただベトナム人の保護者たちは日本語の不自由な方が多く、家庭での子どもの様子が見えてきません。ベトナム人保護者会を年１、２回開いていますが、来て欲しい子どもの保護者は来なかったりと難しい面もあります。

最低限の学力をつけてもらうということは必須ですが、サポーターや支援教員などが配置されているとはいえ、システムの問題や予算に限りがあり支援は十分ではありません。勉強ができなくても、友達がいて楽しければ学校へ来るので、まずは友達を作って欲しいと考えています。

そして母国の文化を知ってもらうこと、また周囲の子どもにも２つの文化を知ってもらいたいと『コリアン・ベトナムフェスティバル』という文化に触れるイベントを10年以上続けています。また、なぜ外国にルーツを持つ子が周りにいるのかという理解を周囲の子どもが深めることも重要で、今後は社会などの授業で韓国やベトナムと日本との関係を取り入れていきたいと思っています。

『ありのままの自分でいたい』。あるベトナム人児童の人権作文のタイトルです。いじめに遭ったりして自分のルーツを隠していましたが、韓国人のある同級生が自分のルーツを素直に話せるのを知り、ベトナム人であることが何が悪いのか、自分も『ありのまま』でいたいと思った、という作文です。小・中学校を卒業すると就職や結婚など困難にぶつかる機会はどんどん増えていきます。それを乗り越えるには自分のルーツに自信を持てる自尊感情を育成することと、理解してくれる友達を持つことが大事です」と話されました。

先生のお話の後は、「他の先生の外国人児童への理解はあるのか」、「日本語がまだ不自由な児童に他の児童と同じ内容の宿題が出されることへ疑問を感じる」、「地域のボランティアを学校にいれることはできないのか」など活発に意見・質問が出ました。

お話を伺って、学校現場でも漢字を習得してもらうことの難しさや保護者とのコミュニケーションの問題などＫＦＣで感じている悩みと同じような悩みを抱えておられるのだということを知ることができた一方で、ＫＦＣでは学習のサポートすることが精一杯の状況ですが、子どもが自分のルーツに自信を持てるような関わり方についても考えていかなければと思いました。

今後も本研修会で学校、保護者などの状況を伺い、子どもを取り巻く人たちで連携を図っていけるように考えていきたいと思います。　　(志岐良子)

■■■ ハナの会■■■

◆ハナの会との交流会に参加して

アンニョンハセヨ！私は、３年生、１年生、９ヶ月の３人の母です。ハナの会の交流会に昨年と今年と２回、親子で参加させていただきました。昨年初めて参加して感じたことは、ハルモニたちがとても元気で、ハナの会で過ごしている姿がとても楽しそうでした。子どもたちも普段、なかなかハルモニたちと交流することがないのでとてもいい行事の一つだと思います。

歌を一緒に歌ったり、踊ったり、今年はチヂミも焼いて一緒に食べたりと子どもたちもすごく楽しんでいました。最初は子どもたちも緊張していましたが、ハルモニたちが声をかけてくれたり、スタッフの人たちも声をかけて場を盛り上げてくださったのですごく楽しむことができました。

これからも、ぜひ親子で参加したいと思います。ハルモニのみなさん、スタッフのみなさん、楽しい一日をありがとうございました。(保護者 李 香)

◆ハナの会　訪問

７月２９日、オリニソダンの子どもたちはハルモニに会える楽しみとチヂミ作りに胸をふくらませながら、蓮池小学校に集まりました。
オリニたちは期待とドキドキを胸にハナの会へ向かいました。
ハナの会につくと、ハルモニやスタッフのみなさんがあたたかく迎えてくれました。オリニたちは緊張と照れで恥ずかしがっていましたが、ハルモニたちの元気な自己紹介で緊張はほぐれたようでした。オリニたちもテレながら自己紹介と、この日のために練習したアリラン・コヒャンエポムを歌いました。
待ちに待ったチヂミ作りでは、ハルモニのご指導もあり、とっても美味しく作れました。ハルモニたちと一緒に作ったチヂミの味は格別！でした。「マシッソヨー！」や、「お腹がはちきれそ～！」と言いながら食べていました。
た～っぷり食べた後にはチャンゴにあわせてハルモニの歌を聞けたことがとてもよかったです。オリニたちも真剣に聞き入っていました。
最後にはハルモニとチュンパン(踊りの場）！ハルモニに手をとられ一緒にオッケチュム（踊り）をしました♪たくさんのオリニたちが本当に楽しく踊りました。ハルモニに、パワーをあげるつもりが反対にもらったかもしれません。　　（蓮池オリニソダン講師 郭 典 子）

◆平野、長田FWを終えての感想

7月12日、私たちはKFCの方々と神戸の2地区、平野、長田を訪問するFWを行いました。
平野地区の山間部にはかつて在日コリアンの集落があり、30世帯の在日コリアンが住んでいたそうです。いまなお2世帯が生活をしているその集落を訪問する住人のハルモニの話を伺いました。
街灯もない山間部。険しい山道に面した掘建小屋のような住まい。一人で生活をされているハルモニの心労・苦労は想像に難くありませんでしたが、その様な苦労を一切感じさせず、ハルモニは快く私達を迎えてくれ、この日はご家族も来られており、一緒にテーブルを囲んでお話を聞くことが出来ました。小学生の時に経験した戦争の話。学校や仕事で受けた差別の話。年に何度か行く韓国でハングルが上手く伝わらなかった話。辛い経験であるはずの沢山の、色々な話。これらを笑い話のように楽しく語る事の出来るハルモニから感じたものは、亡くなった私のハルモニからと同じもの。どこか懐かしさを伴うそれは、まさに“ハルモニ”ではないか、と思います。書物から学べることは沢山あるけれども、こうして直接お会いして聞くことでしか伝わらない話、人の歴史があるという事を強く感じる時間でした。
長田には、朝鮮半島の東学という思想を元とする天道教教会があり、ここでもお話を伺いました。“人乃天（人がまさに天である）”という平民平等の理念を打ち立て、農民層を中心に多くの信者を持っていたそうです。今回は、その思想や、発祥にまつわる歴史等の話を沢山聞くことが出来ましたが、中でも印象に残っているのは、東学が他の宗教と異なる点、“神”の存在について。“神”は人それぞれの心の中にいるということ、つまり、他人と接するということは“神”と対話することなのだという事。分かり易く、「来客があったら神様が来たと思え」とおっしゃっていました。私はあまり信心深い方ではないのですが、ここで大切なのは、“人”と会話をすることの大切さを説いているのだと感じました。
この度のFWを通じて感じたことは、人と触れ合うことの大切さ。書物を通して知ることの出来るものはいわば記録。直接聞くことにより得られるものは確かな記憶として私達に残るものではないかと思います。特に在日三世の私達は、一世のハルモニ達と直に触れ合える最後の世代かもしれません。今後限られた時間の中で、数多くの機会を持ち、確かな記憶を沢山受け取っていきたいと感じました。
(在日コリアン青年連合（KEY）神戸　　安裕司)

■ ■ ■ 今後の予定■ ■ ■

■日本語能力試験「２級合格目標クラス」
後期10月4日(土）～12月6日(土）全10回

■漢字300と日本語初級マスター
9月13日(土）～12月6日(土）　　全13回

■KFC支援者研修会
10月11日（土）13:30～16:00
「日本語ボランティアを経験して」　斎藤明子（神戸YWCA学院専門学校）
　於 ピフレ会議室A
11月8日（土）13:30～15：00　映画鑑賞会「海女のリャンさん」
　於　神戸映画資料館

■日本語秋祭り
10月26日（日）10:00～15:00(予定）　　於 デイサービスセンターハナの会

■在日コリアン青年連合とハルモニたちの敬老の日の交流会
9月23日(火)13:30～16：00　　於　デイサービスセンターハナの会

■ハルモニたちの秋の遠足
10月21日(火)、22(水)　　於 しあわせの村